

佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2024年12月 - 第31号

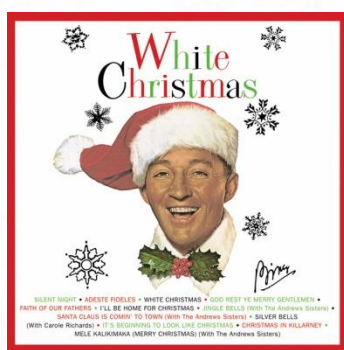


皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ：クリスマスソング

アメリカでは、11月下旬に感謝祭が終わると、クリスマス季節になり、どこでもクリスマスソングを流し始めます。12月中にクリスマスソングしか流さないラジオ局もあります。日本でもクリスマスソングは人気がありますね。英語の歌詞をよく聞くと、クリスマスソングを通じて欧米のクリスマス風習について色々学べます。欧米人にとって、クリスマスは家族と一緒に過ごし、とても大切な時期なので、クリスマスソングを聞くと、実家を思い出す人が多いと思います。今月は、私にとって懐かしいクリスマスソングをいくつか紹介します。(曲名をクリックすると、YouTube で聞くことができます。)

“White Christmas” – Bing Crosby



この曲は、1942年にビング・クロスビー主演の「スイング・ホテル」(*Holiday Inn*)というミュージカル映画に出ましたが、映画を見たことがなくても、誰でもこの曲を知っているでしょう。クリスマスソングだけではなく、歴代で最も多く売れたシングルとされています。

「White Christmas」は、言葉通りの「白いクリスマス」という意味で、雪が積もったクリスマスです。私の故郷のシアトルで、雪は滅多に降りません。記録を取り始めた1891年から今まで、クリスマスに雪が積もったのは、8回しかありません。その8回の中で、私の人生で経験したのは1990年

のクリスマスに2cm積もった、たった1回のみでした。ですから、「White Christmas」に大変憧れていました。12月中に、毎日寝る前に「クリスマスに雪が降りますように！」と祈っていました。

大人になってから北海道に引っ越しましたが、ここは「White Christmas」が当たり前ですね。やはり雪があった方がクリスマスっぽくなります。

“Last Christmas” – Wham!

この曲は、クリスマスの次の日に恋人に振られたという切ない内容ですが、やさしいメロディーとジョージ・マイケルの滑らかな声で癒されるので、昔から大好きです。しかし、毎年ラジオでかかりすぎるせいで、この曲が嫌いな人は少なくありません。最近、SNSで12月中に「Last Christmas」を聞かないように挑戦するゲームが流行っています。このゲームは、ドイツのインターネット掲示板から欧米に拡大し、「Whamageddon」(ワマゲドン)と言います。グループ名「Wham!」(ワム!)と英単語の「Armageddon」(アルマゲドン)から名付けられています。アルマゲドンは世界が滅びるような戦争のことですから、「Whamageddon」はWham!との戦争の意味になるかな？

ルールは簡単です。「Last Christmas」を聞くとアウトです。できるだけ長く聞かないようにしなければなりません。自分で再生し



てはいけませんし、買い物や外食しながら自然と耳に入ってきて負けます。いたずらで「Whamageddon」中の人に「Last Christmas」の動画のリンクを送ったりして、失格させることもルール違反ではありません。負けたら、SNSで「#Whamageddon」を投稿しなければなりません。25日の0時まで聞かないことに成功できたら、勝ちます。

ちなみに、Wham!のオリジナルバージョンを聞いてはいませんが、カバーバージョンは許されます。「Whamageddon」に挑戦してみたい日本人は、EXILEバージョンを好きなだけ聞いて大丈夫です。

私は「Last Christmas」が好きなので、「Whamageddon」に参加しません。感謝祭の次の日ブラック・フライデーに、クリスマス季節の最初のクリスマスソングとして、あえて「Last Christmas」を再生しています。私はもうすでに負けています。

“Fairytale of New York” – The Pogues



この曲は、日本に来るまで聞いたことがありませんでした。The Pogues はイギリス生まれアイルランド人のパンクバンドです。歌詞はカップルの喧嘩なので、この曲も切ない

ですが、歌詞の意味よりも、この曲の思い出があり、好きなクリスマスソングになりました。

多くの日本に住んでいる留学生や若い英語の先生は、クリスマスに国に帰りますが、様々な理由で、帰らない人もたくさんいます。一人ぼっちでクリスマスを過ごすのはとても寂しいので、友達と一緒にパーティーをする外国人がたくさんいると思います。

2011年に、クリスマスにアメリカに帰らなかった時、南幌町に住んでいたオーストラリア人の友達と一緒に、南幌でパーティーを開催することにしました。私はクリスマスソング担当でした。私が好きなクリスマスソングをプレイリストに入れましたが、オーストラリア人の友達に「絶対プレイリストに追加しないとイケないクリスマスソングある？」と

聞くと、友達が「Fairytale of New York」と答えました。アメリカでは定番のクリスマスソングではないので、初めて聞きました。第一印象は「この人、歌下手だなあ」と思いました。しかし、パーティーで再生すると、そのオーストラリア人の友達だけではなく、イギリス人やアイルランド人の友達も「この曲、すごくいいね！」と話し合い、みんなで歌っていました。この曲はアメリカで定番ではないのですが、イギリス、アイルランド、オーストラリアなどでは人気のクリスマスソングの一つです。英語圏の人でも、文化の違いがあると改めて思いました。

今はこの曲を聞くと、そのオーストラリア人の友達とその楽しいパーティーを思い出します。そして、この曲はデュエットなので、カラオケのために女性のパートをマスターしました。アメリカ人ではない英語圏の友達と歌うと、盛り上がります。

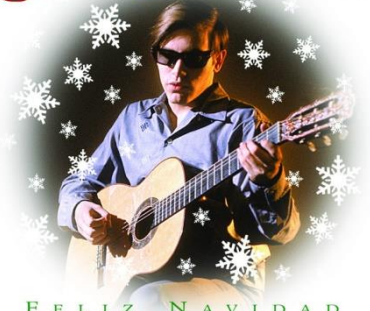
“Feliz Navidad” – José Feliciano

この曲は1970年にプエルトリコ人のシンガーソングライター、ホセ・フェリシアーノに作曲されました。あるクリスマスに、実家のニューヨークから離れ、一人ぼっちでロスアンゼルスでクリスマスを過ごしたので、寂しくなってこの曲を書きました。「Feliz Navidad」(フェリス・ナヴィダ)はスペイン語で「メリークリスマス」という意味で、スペイン語と英語を混ぜて歌います。

この曲が好きな理由は、母が嫌いだからです。これもアメリカの定番クリスマスソングなのですが、ラジオに流されると、「いやだ！この曲嫌い！」と母が毎回言っていました。母は嫌いな理由を教えてくださいませんでした。失恋と関係あると何となくわかりました。母の反応が面白かったので、私と兄はよくからかうために歌っていました。

3年前位に、家でクリスマスソングを聞いている時に、娘が「プリーズ・マリアが聞きたい」と言っていました。何の曲か全くわかりませんでした。が、「マリア」はイエスのお母さんの名

José Feliciano



前なので、その歌詞が入っているクリスマスソングがありそうで、夫と一緒に一生懸命思い出そうとしました。たくさんのクリスマスソングを再生してみても、「これなの？」と娘に聞いたら、「NO!」と答えました。結局諦めました。

しかし、何日か後に、「Feliz Navidad」がプレイリストから再生された時に、娘が「これだ！プリーズ・マリア！」と言い出し、「フェリス・ナヴィダ」と合わせて「プリーズ・マリア」を歌っていました。まるでタモリ倶楽部の空耳アワーのようでした。この曲をきっかけに、娘に英語と日本語以外、スペイン語など、たくさんの言語があると説明しました。ちなみに、そのあと、娘はスペイン語のことを「Feliz Navidad 語」としばらく呼んでいました。

“Christmas in Killarney”



母の嫌いなクリスマスソングを紹介したので、母の一番好きなクリスマスソングも紹介します。この曲はアイルランド系アメリカ人の曲で、アメリカでは定番ではないかもしれ

ませんが、家にあったクリスマスソングのカセットテープに入っていたので、毎年聞いていました。

そのカセットテープが壊れて聞けなくなった大学時代に、母のクリスマスプレゼントに同じ曲が入っているCDを作成しようとしてしました。定番のクリスマスソングはすぐインターネットからダウンロードができましたが、この曲はいくつかのバージョンがあり、テープに入っているバージョンを忘れました。検索結果でビング・クロスビーが歌うカバーがありましたが、ダウンロードして聞いてみると、「なんか違うな」と思いました。母の好きなバージョンはもっと本格的なアイルランドのなまりで歌っていました。

結局、Irish Rovers が歌うバージョンにしました。カセットテープと違いますが、雰囲気似ていると思いました。母にCDをあげた時、大変喜んでくれました。早速再生してみると、「これだ！私の好きなクリスマスソングだ！」母には、カセットテープと同じ曲に聞こえたようです。ビング・クロス

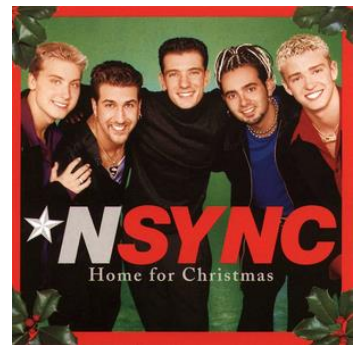
ビーはクリスマスソングの王様ですが、この曲はやはりアイルランド人が歌わないとダメですね。

“O Holy Night”

最後に、伝統的なクリスマスソングを紹介します。伝統的なクリスマスソングは、イエスの誕生についての賛美歌が多いです。この曲もそうです。元々1847年にプラシド・カポーに書かれたフランス語の詩でしたが、フランスの作曲家アドルフ・アダンが作曲しました。それから、1855年にアメリカ人の牧師、ジョン・サリバン・ドワイトが英訳しました。日本語の曲名は「さやかに星はきらめき」です。

様々なアーティストがこの曲を歌っています。英語で1130バージョン、フランス語で550バージョン、他の言語でもたくさんリリースされました。セリーヌ・ディオンやマライア・キャリーなどの有名なポップアーティストも歌っていますが、私の一番好きなポップバージョンは、NSYNC(イン・シンク)が歌っています。

NSYNCは私の大好きなアメリカのアイドルグループでした。1998年にデビューしましたが、同じ年に「Home for Christmas」というクリスマスアル



バムも発売されました。このクリスマスアルバムはオリジナルのクリスマスソングが多いですが、「O Holy Night」の伝統的な賛美歌も入っており、しかもアカペラバージョンです。アイドルグループはよく外見で人気になり、歌声はそうでもないグループはあるかもしれませんが、この曲で、私が感動して泣きそうになるくらい5人の歌声は天使のようです。本当に美しい曲なので、おすすめです。

ちなみに、同じアルバムから「[Merry Christmas, Happy Holidays](#)」という曲が定番クリスマスソングになり、Wham!やマライア・キャリーなどと一緒にラジオでよく流されています。聞いてみてください！メリークリスマス！★

お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434